

重点施策 14 文化財の保存及び積極的な活用

【施策方針】

国重要文化財に指定されている日土小学校の校舎見学会や梅之堂三尊仏の一般公開等、文化財の保存・活用に努めるとともに、唐獅子五ツ鹿共演大会等を通じ伝統的行事文化の継承を図り、旧白石和太郎洋館を中核とした保内町の古いまちなみの保存、紹介を行う。

【実施状況】

(1) 主な施策・事業

文化財の保存、継承

- ① 重要文化財日土小学校校舎見学会
- ② 梅之堂三尊仏の一般公開
- ③ 旧白石和太郎洋館管理、一般公開
- ④ 文化財保護審議会の開催

(2) 主な施策・事業の実施状況

① 重要文化財日土小学校校舎見学会

平成 21 年度から平成 24 年度までは学校教育課所管であった日土小学校校舎見学会が平成 25 年度より生涯学習課の所管となった。平成 28 年度は 480 名の見学者があった。

八幡浜市役所の職員であった建築家松村正恒が設計し、中校舎と東校舎は、それぞれ昭和 31 年と昭和 33 年にかけて完成した。平成 20 年 9 月から地震補強（中・東校舎）、新增築（西校舎）を実施し、平成 21 年 6 月末で保存再生工事が完成し、日土小学校校舎は、数少ない木造校舎の耐震補強事例であるとともに、文化財の改修方法を用いながらも、現代の建築基準法等に配慮した全国的に見ても稀有な校舎であることから、全国から見学の依頼が多く寄せられることとなった。

そして平成 24 年 12 月 28 日、戦後建築としては 4 番目、戦後木造建築としては初の重要文化財に指定された。

通常、学校教育の場となっている校舎は、児童への影響を考え、原則非公開としているが、関心の高さを考慮し、長期の休みを利用して日土小学校のすばらしさを、多くの方々に共感していただきたいという思いから見学会を 3 回開催した。

② 梅之堂三尊仏の一般公開

国指定の重要文化財である梅之堂三尊仏の一般公開は、5 月から 12 月の第 2 日曜日及び特別公開を年 2 回行った。（合計 10 回、うち特別公開 8 月 15 日、10 月 19 日）

③ 旧白石和太郎洋館管理、一般公開

平成 18 年度に改修が完了した市指定文化財旧白石和太郎洋館については、毎月

第2・第4日曜日に一般公開し、随時イベントや会議用に貸し出しを行った。旧保内町の繁栄、栄華の跡を今日にまで遺すものとして、公開は無料とした。

また、この旧白石和太郎洋館の管理を一般から募集し、委託した。(旧白石和太郎洋館管理委託料 240 千円) まちなみ見学用駐車場及び公衆トイレ管理業務についても、同じくこの旧白石和太郎洋館の管理者に委託した。この見学用駐車場と公衆トイレは、旧白石和太郎洋館を中核とした旧保内町のまちなみの見学者・来訪者専用に使ったものである。(まちなみ見学用駐車場及び公衆便所管理業務委託料 240 千円)

④ 文化財保護審議会の開催

有識者による文化財保護審議委員を各分野から選任し、文化財の保護、および新しい市文化財の指定、指定の解除等について議論をし、文化行政に反映させる意見や助言をいただいた。

28年度末、審議会より、「圓照寺伝来の八代焼」「菊池清治邸」を市有形文化財に指定することが答申された。

【事務事業点検評価委員意見】

- 日土小学校の校舎は、「近代建築のもっとも優れた成果の一つとして、今日に至るまで多くの人々の心をとらえ、人に優しい空間とは何かを教えている」と言われている。子どもたちにとっても、大人たちにとっても、生きた教材そのものであるとまで…。先日、偶然この日土小学校校舎に入る機会を得た。旧校舎の際には気付かなかった「子どもが快適に暮らせる」すばらしい空間が、生き生きとした児童の映像とともに伝わってきた。
- 一般には、平安時代の阿弥陀如来五尊像としては全国で現存する唯一のものと紹介しているが具体的な事実にはあまりふれていない。インターネットでは、阿弥陀如来三尊像の胸腹部内側の墨書まで紹介しているので、平安時代にまで歴史を遡ることができる。梅之堂三尊仏開帳日は、数少ない郷土の歴史について紐解くよい機会であり、小中学生を始め多くの人々の参加を期待したい。

【自己評価】

- 市内には様々な分野の貴重な文化財が守り伝えられている。それらの詳しい情報を入手したり、見学会などを通じ身近に触れたりできるよう、資料の紹介や周知発信の方法を工夫していきたい。